

浜 私 幼

横浜市幼稚園協会 協会報 No280

公益社団法人 横浜市幼稚園協会 発行
〒221-0055
横浜市神奈川区大野町 1-25
横浜ポートサイドプレイス アネックス 5F
電 話 045 (534) 8708
https://www.kids-yokohama.or.jp
編 集 横浜市幼稚園協会広報部
発行者 鈴木 浩
印刷所 株式会社横濱大氣堂

- 令和2年度横浜市幼稚園大会
- 第58回横浜市幼稚園教育研究大会
- 第60回神奈川県私立幼稚園教育研究横浜地区大会
令和3年1月23日(土) 神奈川県民ホール 大ホール

横浜市幼稚園協会
鈴木 浩会長による
「永年勤続者表彰」の様子▶



令和2年度横浜市幼稚園大会は、当初令和2年6月24日(水)に横浜市文化体育館を会場として、横浜市幼稚園協会設立60周年記念事業の一環として開催される予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から延期となっていた。その後、令和3年1月23日(土)に開催する第58回横浜市幼稚園教育研究大会・第60回神奈川県私立幼稚園教育研究横浜地区大会と合わせて開催することとなり、午前中に幼稚園大会、午後から教育研究大会を開催する方向で諸事検討がされた。しかし、感染者数の減少が見られない中、県民ホールを埋め尽くしての開催は無理との判断の下、午後の短時間で幼稚園大会と教育研究大会を開催し、永年勤続表彰受表彰者以外、各園3名までの参加などの制約を課した上で、オンライン配信を併用する事となった。年が明け1月に入ると、新型コロナウイルス感染症の更なる拡大、感染者数の増加に伴い、緊急事態宣言が再発出されるに至り、会場参加は一切無し、完全オンライン配信の最終決定が下された。

参加者が2,000人近くになるオンライン配信はもとより、県民ホールを会場とした配信、3時間以上にわたる配信、式典や講演に加え事前収録の動画配信など、初めて尽くしの両大会となり、会場との事前打ち合わせ、前日準備を経て、当日は協会正副会長、担当部長、式典担当者と配信担当者、合わせて20名程のスタッフが運営にあたり、例年の大会以上に緊張感を帯びての開催となった。

13時30分からの令和2年度横浜市幼稚園大会は、壇上に林文子横浜市長・横山正人横浜市長長寄贈の花籠が並ぶ中、清水純也副会長による開会の挨拶に引き続き、鈴木浩会長が挨拶に立ち、永年勤続表彰者への祝辞を述べた上で、来賓各位へこのような形で開催にあたりご迷惑をお掛けしたことにお詫び申し上げるとともに、オンライン配信でご視聴いただいている事へ感謝の意が伝えられた。また、土曜日開催の中1,800名以上のオンライン参加があることにも重ねて感謝の意が述べられた。本年度、横浜市とともに作成協力した「よこはま☆保育・教育宣言」について触れ、就学前の子どもたちに関わる保育者の姿が示されたことに喜びを感じるとともにその責務の重さを実感し、その中で、保育者の重要な仕事の一つ、一人ひとりの子どもの良さを発見し育てる事は、直接、教育・保育に関わる保育者が大切にしていることであり、その保育者としての経験や関わり方そのものが子どもたちの財産となっており、この良き日をきっかけに、さらに研究・研修を重ね、これからの横浜の健やかな子どもたちの成長を担っていただきたいことが述べられた。

横浜市幼稚園父母の会連合会滝沢広夏会長からのビデオメッセージでは、永年勤続表彰者へ祝意とともにコロナ禍にあっての保育に感謝の言葉が述べられ、今大会テーマ『のびやかに 今を

豊かに生きよう 未来へ つなげ』について、その意を話された。加えて、今年度は加盟園へ絵本をプレゼントすることが伝えられた。

その後、永年勤続表彰として、鈴木会長から協会表彰・市長表彰の読み上げが行われ、その功績がたたえられた。

林市長からの祝辞を渡邊英則副会長が読み上げ、長きにわたり子どもたちに寄り添い、健康な心と体を育む環境づくりなどへの尽力に感謝の意が述べられるとともに、「よこはま☆保育・教育宣言」の活用を願われた。引き続き、横山横浜市長からの祝辞を菊込副会長が読み上げ、コロナ禍においても、多くの先生方が子どもの育ちを大切に保育することで、横浜市の幼児教育は支えられていることに感謝の意が述べられた。

清水副会長が代読し大会宣言が提案され、加盟園保護者を代表して横浜市幼稚園父母の会連合会執行部が承認し、後日、横浜市及び横浜市議会に届けることとされた。

最後に永年勤続表彰を受けた教職員を代表して、濱野早苗先生(東台幼稚園)からの謝辞がビデオメッセージとして流された。

以上で式典はすべて終了し、菊込副会長が閉会の辞を述べ、幼稚園大会は閉幕した。

14時40分からの第58回横浜市幼稚園教育研究大会、第60回神奈川県私立幼稚園教育研究横浜地区大会は、主催者である神奈川県私立幼稚園連合会木元茂副会長の挨拶で始まり、来賓である山中毅神奈川県福祉子どもみらい局子どもみらい部私学振興課長からの祝辞が榑木元生副会長の代読で披露された。

玉川大学教育学部 教授 大豆生田 啓友 先生から『あなたは、保育が「楽しい」ですか? - 「幸せ」になるための保育実践を考える -』をテーマに講演があり、約1,700名(最終集計)のオンライン配信視聴があった教育研究大会は、最後に渡邊副会長の閉会の辞をもって幕を閉じた。



▲令和2年度横浜市幼稚園大会 壇上の様子

※写真提供:株式会社 写真のワタナベ

第58回横浜市幼稚園教育研究大会

第60回神奈川県私立幼稚園教育研究横浜地区大会 《講演》

あなたはいま、保育が「楽しい」ですか？
—「幸せ」になるための保育実践を考える—

講師／玉川大学教育部・教授 大豆生田 啓友 先生

第58回横浜市幼稚園教育研究大会及び第60回神奈川県私立幼稚園教育研究横浜地区大会は、玉川大学教育学部・教授 大豆生田啓友先生をお招きし『あなたはいま、保育が「楽しい」ですか？—「幸せ」になるための保育実践を考える—』の演題で、今回は、オンライン中継のみの講演となりました。コロナウイルスの感染に配慮しながら保育をされている先生方へ感謝を述べられてから、お話しの本題へと入られました。



まず、演題であります『あなたはいま保育が「楽しい」ですか？』について、今、私達は想像してない事象が起きていて、今の子ども達が大人になる頃には温暖化の問題も極めて深刻であり、コロナが無かったとしても現実問題な訳です。この機会に私達は、人が本当に幸せに生きていくという事はどういうことなのか、こうした状況下でも私達は幸せを作り出していけるのだろうか、まさに先生方は乳幼児時期の極めて重要な時期、人生のスタートが、幸せからスタートできるかどうかに関わる重要な仕事をしてくださっていると思います。そういう意味を含めて「幸せですか？」それは、先生方に、目の前の子ども達に、そしてそこに関わる保護者にも問いかけることを含めて、この問いが、今、乳幼児期の大きな激動期にあります。

例えば、保育の事をメディアで取り上げられることがおそらく今までなかっただろうと思いますが、これは、まさに日本の幼児教育がこれまでにない大激動期にあると考えられ、だからと言って、日本の幼児教育、保育はけっして良い条件の中で保育の場が与えられている訳ではありませんので、本当はもっと社会からリスペクトされるべきだと思っています。それはどの園でも、子どもの最善の利益を保証されていますと言うことが大きな力になっていく時に、国が動いていくのではと思います。

その様な中で、新型コロナウイルスの問題が起こっ

てしまい足をすくわれたように思います。そうした事から、子ども環境学会でアンケートを取らせて頂き、第一回の緊急事態宣言下の中で、多くの園では休園という措置をとりましたが、その登園自粛期間であったにも関わらず、多くの園で子ども達との繋がりを作ろうと色々と工夫されていたことは凄いことだと思います。このアンケートで見えてきたのは、一人ひとりに手厚い保育ができ、考えてみれば幼稚園は、一学級35人以下となっていますが、これは世界の中では最低レベルと言われています。それは、この国の子育てに対しての理解がまだまだなので、本来この事も見直されていくべきだと思います。

それから、緊急事態宣言後ですが、新しい保育の生活様式が求められる中で、意外な結果が見えてきました。それは、子どものマスクですが、3歳未満に対しては余り言われていません、でも、多くの園が保護者次第とか、無理にはマスクをしないようにと言う柔軟な対応が採られたのは良くも悪くもではなく、どの様に判断して良いのかが難しい状況の中でも、子どもの事を第一に考えようという事が見えてきました。この事はもっと社会に知ってもらわなければならないと思います。そうした事ができた背景には家庭との信頼関係を築きながらやってきた事がとても大事な働きをしたのだと思います。

それから行事ですが、多くの人が集まったり、密になれないという事もあり、多くの園が運動会等の見直しをし、それまで日々練習をし、親のために見せなければならぬとしてきた園も、この機会に見直すという園がアンケートの結果から見られ、また、コロナ対応により保育者の負担が増加し疲弊している状況も伺えて、本当に精神的にも、肉体的にも、大変な中で保育に取り組んでいることが見えてきます。

前の話に戻って、各園の緊急事態宣言下での対応などで、登園後の遊びにも変化や工夫が見られ、デジタル化の導入援助で、遊びがとてもリアリティーになったとのお話も全国から沢山お聞きします。

そういう意味で言うと、新しい生活様式時代の保育「ニューノーマル時代の保育」とは、これまで当たり前としていた保育が本当に良かったのだろうか、時代が変わる中でこれを見直す機会だと捉えている園も多いようで、まずは1つ目として子ども達の生命を守る事も大事ですが、それと同時に子どもの人権の育ちも保証するという事が、幼児教育、保育には求められている事でもあり、改めて子どもとのコミュニケーションや信頼関係を大事にし、そして、自然に触れ、実体験をさせてあげながら、主体的な遊びを大切にす

るという動きが出てきています。2つ目として、幼稚園と家庭・保護者との連携が大事で、今や日本の家庭も決して裕福時代ではなく、7人に1人は貧困家庭だと言われていますが、それはコロナ禍によって経済的に打撃を受けた家庭が増えていて、それも子どもに影響を与えます。だとすると、家庭と繋がりながら利益を保証するということが、益々大事になり、保護者へのサービスが幼児教育ではなく手を繋ぎながら一緒に子育てが出来る事が改めて自覚化された訳です。

そして、3つ目として、行事の見直しにより子ども主体の質の高い保育を保証する見直しが起こり始めています。

4つ目として、ICT活用でこれからの時代では、多くの職業にインターネットが活用されて行くとなるとこの事を上手に使うことが大切であり、それは研修活動の幅においても、限られた人数よりは、数百、数千規模の人が視て、聞いて、質の高い研修会を実施できるという事が、各自治体でも広がってきています。また、デジタルを活用することで、先生方の仕事の軽減にもなることが、今の国会議でも検討されており、これは、コロナによって大きく時代を動かしたと言えます。また、先生方の疲弊感が問題になっていますが、これは園によって、先生によって差が見られ、感染対策に対して一生懸命にされていることは良いのですが疲弊する保育者と、してない保育者では意欲的な差が出てきています。それは、先生方が、どの様にコロナ禍の中で、新しい保育を作っていくかが課題だと思います。



今回のテーマに沿って申し上げると、先生が毎日している保育は、先生方が思っている以上に大きな影響を子ども達に与えています。それは、協会の研修をはじめ、全国で研修の在り方も変わってきていて、多くの先生が研修を通じて色々なチャレンジをされて、自分の保育が変わって、子ども主体の保育を始めてみたら、保育がこんなに楽しくなってきたと言う声が増えてきています。

今、横浜市の幼児教育、保育の質の向上の取り組みや、幼保小連携の取り組みをしてきた結果、全国の先進的な自治体、モデルとして注目を浴びていて、NHKのEテレ「すくすく子育て」の中で、この取り組みについて取りあげられました。小学校の先生が幼児教育に学べという風に言ってくださっている極めて貴重な取り組みに、幼稚園に対して感謝すると共に、あそびや主体的な保育をされてきた子ども達が小学校1年生に繋がって行く中で、スタートカリキュラムが進められる

予定でしたが、残念ながらコロナ禍で脚光を浴びませんでした。

更に、横浜はよこはま☆教育、保育宣言を出し、乳幼児の、こころもち（単に「心」心理だけではなく、それは、一人ひとりのその子のその時の、内面まるごとすべて）を大切にする、これは、横浜市の保育所、幼稚園、認定こども園、小規模保育事業、横浜保育室等、全ての幼児期の保育に関わる横浜の園では、この宣言が、幼稚園教育要領や保育所指針も含めて、これから大きな、拠り所の1つとなっているということが語られました。そして、宣言1として、安心できる環境と一人ひとりを大切にする保育、宣言2から、子どもの育ち学びを支える主体的な遊びを保証することに加えて、幼保小の連携、乳幼児期の育ち学びを受け止めて小学校以降の教育に繋げるとしています。

また、乳幼児期の遊びは極めて重要とお話ししてきましたが、ただ遊ばせておくのではなく、それが学びに繋がる様な、ブームに繋がる様な、遊び込むに繋がる様な遊び、まさに非認知能力（意志力、自尊心、粘り強さ、自己コントロール、思いやり）が幼児期には大事で、この様な教育を受けてきた子と受けてこなかった子達を比べると大人になった時に前者の方が明らかに幸福感が高いとか経済力が高いとかなどと経済学者が言っております。また、乳幼児期に質の高い教育保育を全ての子ども達に保証することが、単にその子にとって良だけでなく、この国の経済にまで影響を与える事を政治家や一般の方に訴え、子ども達にもっとお金を出してください、先生方の働き方を、もっと保証してくださいと戦略を持って言っていくことが私たちに求められています。そして、幸せな子どもを育てる4つの因子とは、1つ目「やってみよう」という気持ちが出る因子、2つ目「ありがとう」という気持ちを生ませる因子、3つ目「なんとかなる」上手いかわなくても乗り越える因子、4つ目「あなたらしい」人と比べられることのない因子であります。それは大人にもあてはまる因子であると言われていました。

また、保育の質を高めている園の特徴として5つほどあげられ、それには、保育者、保護者、全ての方が「幸せ」である事は、先ず自分が元気であることが大事であり、自分が弱っていたならば、少し自身を休め、元気を取り戻して来た時には、無理のない範囲でチャレンジを始めていく事が、自分も子どもも、保護者の幸せにもつながると締められ、最後に、講師の好きな子どもの写真から見られる言葉を会場に響かせて終わられました。



「新しい生活様式の中で」



横浜市幼稚園協会父母の会連合会 栄区 飯島幼稚園 滝沢 広夏

令和2年度は、緊急事態宣言の発令で幕を開けました。私たち横浜市幼稚園協会父母の会連合会は、9月に初めてZoom上の画面越しに顔を合わせました。その後も対面での会議は叶わず、Zoomにてオンライン会議を開きながら活動して参りました。二度目の緊急事態宣言のもと、1月には幼稚園大会をオンラインにて開催して下さいました関係者の皆様には心より感謝申し上げます。

今年度は、コロナ禍のため十分な活動を行う事はできませんでしたが、半年程の間に沢山の方々とのご縁をいただきました。幼稚園協会の集まりでは、園長先生方が一堂に会し、その存在感に緊張しながらも立ち居振る舞いやご挨拶・ご発言など、ひとつひとつが学びとなり生涯の宝物となりました。

また、役員5名とは、集まり、顔を合わせることが難しい状況だからこそ、SNSでの情報・意見交換を通して、幼稚園大会のテーマ決め・各園への寄贈絵本の選定などをするうちに、固い団結がうまれました。

役員として園長先生をはじめ先生方の傍らで活動をさせていただき、先生方がこの状況下においても、子ども達や保護者の為に暗中模索しながら、少しでも多くの行事や催しを開催してあげたいという熱い思いを感じました。その思いを保護者の皆様へお伝えし、幼稚園と各家庭で力を合わせ、子ども達がより豊かな環境で過ごすことができるよう尽力して参ります。

父母の会連合会は、今後も子ども達の豊かな未来のため

めに活動を行って参ります。皆様におかれましてはご理解とご協力を賜り、父母の会の活動に積極的にご参加くださいますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、父母セミナー開催の代わりに各園に寄贈しました『かがみのえほんプレゼントセット』の紹介記事を役員でまとめました。是非、ご家庭でも『かがみのえほん』を手にとってみて下さい。

父母セミナー開催の代わりに、絵本を寄贈いたしました。

『かがみのえほん プレゼントセット』

- ふしぎなにじ
 - きょうのおやつは (全2冊)
- わたなべ ちなつ 作
福音館書店 発行

鏡のようにピカピカした紙でできた絵本を90度で向き合うようにページを開くと、絵が立体的に映ります。わたなべちなつさん(作者)のお写真と直筆メッセージを添えて、全加盟園へ寄贈いたしました。

父母の会連合会役員からの推薦メッセージ

絵本を90度を開くと、かがみに映る立体的な絵にびっくり! ページをめくると手に手の中に不思議な世界が広がります。

絵本に読み聞かせてくださる先生の手が映ったり、自ら読む園児の姿が映ったりして、まるで自分も絵本の中に入りこんでいるかのようです。

幼稚園でお友だちや先生方と楽しく心豊かな時間を過ごしていただきたいと願い、この絵本を選定させていただきました。

Congratulation

令和2年度神奈川県私立学校教育功労者表彰 受賞 おめでとうございます

小笠原 裕 先生

学校法人横浜平成学園 理事長
平戸幼稚園 園長



※神奈川県私立学校
教育功労者表彰

私立学校教育の振興を図るため、私立学校の教職員、校長、園長、理事長及び設置者等を対象として、他の模範となる特に顕著な功績をあげた教育功労者を表彰することを目的とする。

編 集 後 記

今年度は、昨年1月からのコロナウイルスの影響により、4月、5月を休園する幼稚園が多く、活動もコロナ感染を抑えつつも、子どもの育ちを考える、今までとは異なったものになっています。幼稚園協会の活動も同様に、中止や延期になった事業が多く、皆様への情報提供や子育て支援が思うようにすることが出来ず、心苦しい思いで一杯です。

来年度もこの影響はしばらく続くと思いますが、その状況でも、皆様の子育て支援となる情報提供や協会の活動報告が、できる限り伝えられるようにと考えておりますので、変わらずのご愛読のほど、宜しく願いいたします。

広報部 菊込 大